

アニメーション映画

# 未来に向けて

～防災を考える～

東日本大震災から学ぶ備えとは―



製作・著作

一般社団法人東北地域づくり協会

自然災害多発国と言われている我が国においても過去の経験のない広域で甚大な被害を及ぼした東日本大震災の経験も記憶も、慌ただしい日々の生活の中で薄れつつあります。当時、どのような被害が出たのか？どのように避難され生き延びたのか？どのような防災対策が活かされ、どこが活かさなかったのか？我々は再確認する必要があると思います。さらに、忘れてならないこととして、あの時の被害を左右したのは事前の取組の有無であり、被害を軽減できたのは過去の災害を忘れず、備えとして地域で取り組んだ活動であったことです。

このアニメーション映画は、大震災の中での代表的なエピソードが取り上げられています。普代村の防潮堤・水門がどのような背景の下に建設され、かつ維持されたのか？釜石・鶴住居での津波避難は、なぜ成功したのか？いずれも後世に語り継いで行かなければならない逸話であります。今後も国内外で自然災害の発生は懸念されておりますが、今回の東日本大震災での教訓を繋いでいき、二度と悲劇を繰り返さない決意が必要です。

アニメは日本の新しい文化です。今回、従来の災害文化の中に、新たな要素が加わり、より広く防災・減災への意識が伝わっていくことを祈願しております。

今村文彦

東北大学災害科学国際研究所 所長

津波工学研究分野 教授

#### <ストーリー>

2011年3月11日、東日本大震災により東北地方を中心に大きな被害が出ました。その中で津波による被害から多くの命を守った二つの地域がありました。

一つは岩手県普代村です。この村では高さ15メートルを超える防潮堤と水門が津波から村を守ったのです。防潮堤建設の計画段階では「万里の長城」と呼ばれた同県宮古市田老地区の防潮堤(高さ10メートル)を大きく上回る規模に反対する声もありました。しかし当時の和村幸得村長は「明治に15メートルの大津波が来た」という言い伝えにこだわり「高さ15メートル以上」を主張し続けたのです。こうして1967年に高さ15.5メートル全長155メートルの太田名部防潮堤が、1984年に高さ15.5メートル全長205メートルの普代水門がそれぞれ完成し津波から村人の命を守ったのです。

もう一つは岩手県釜石市の鶴住居地区です。大槌湾に面したこの地域は津波により壊滅状態になりましたが小学校と中学校にいた児童、生徒は全員無事でした。これは釜石市教育委員会と現場の教師たちが取り組んできた防災教育の成果だったのです。

自然災害を無くすことは出来ません。「過去の災害や経験から学び防災設備を整備する事」「常日頃から避難訓練や避難方法を考え災害に対して準備をする事」

「未来に向けて～防災を考える～」はこの二つの重要性を描き、防災に対する意識を日本の未来を作る若い世代が自分たちの問題として考えられるアニメーション映画です。

#### <キャスト>

「備える編」千葉一伸/木村雅史/日下ちひろ/平田真菜/八代 拓/千葉優輝/土門 仁/小松奈生子/佐藤拓也/宮本 淳/米山有佳子/菅生隆之

「学ぶ編」桑島法子/小澤亜李/山谷祥生/日下ちひろ/千葉一伸/高岡瓶々/土門 仁/高橋伸也/日野まり/木村雅史/鳴海崇志

桑田まどか/須藤 翔/千葉俊哉/三上由理恵/山本祥太/山本希望

#### <スタッフ>

プロデューサー・森井俊行/脚本・田部俊行/絵コンテ・キャラクターデザイン・四分一節子/

総作画監督・小林ゆかり/美術監督・本多 敬/彩色設計・西川裕子/撮影監督・王 進/編集・中葉由美子(岡安プロモーション)/制作担当・三上鉄男

音響監督・森田洋介/音響効果・今野康之(スワラプロ)/録音調整・西澤規夫/録音スタジオ・スリーエススタジオ/音響制作担当・清水勝則/音響制作・ザック・プロモーション

音楽・小林洋平/音楽制作・FAIR WIND music

監督・出崎 哲

#### <協力>

岩手県/宮古市/釜石市/大船渡市/陸前高田市/山田町/普代村

<アニメーション制作・著作>

虫プロダクション株式会社

<製作・著作>

一般社団法人東北地域づくり協会

<60分カラー・ステレオ/画面サイズ16:9>

#### 映画に関するお問い合わせ

一般社団法人東北地域づくり協会(宮城県仙台市青葉区八幡一丁目4-16/電話:022-268-4711)

この映画は、東北地域づくり協会が公益事業の一環として制作したものです。